の報告はこれが初めてである．染色体数を確認した個体のさく葉標本（TUS 15236，TUS 15237，TUS 15241）は東北大学大学院理学研究科生物学教室標本室に保存してある．

1997年春，生育状況を確認のため現地を訪れたところ，開発の波が自生地のすぐ近くまで押し寄せ，このままでは絶滅の危機に瀕していることが判明した．自生地の早急な保護対策が望まれる．

引用文献

内野明徳 1985．エンレイソウ属植物の花器の変異について．植物研究雑誌 **60**（6）: 183-185．
鮫島和子，鮫島淳一郎 1987．原色図譜 エンレイソウ属植物．北海道大学図書刊行会．

（長岡京市[redacted]）

山口県におけるホンゴウソウの産地（武内康義）
Yasuyoshi Takeuchi: On *Sciaphila japonica* in Yamaguchi Prefecture

1972年刊行の山口県植物誌には，ホンゴウソウ科の植物は収蔵されていない．1972年10月18日長門峡を訪れた際，大谷淵付近の歩道，西岸の苔むした岩上に偶然にも開花結実したホンゴウソウ *Sciaphila japonica* Makino を見つけ採集した．1985年の同時期に再度，現地を訪れたが，以前生えていた場所は状況がかなり変わっており，ホンゴウソウを確認することはできなかった．

先日，山口県立山口博物館に山口県でのホンゴウソウ採集記録の有無を問い合わせたところ，1992年9月21日豊田町で，三宅貞敏氏採集（標本番号 73374）と1993年10月4日秋芳町で，松井茂生氏採集（標本番号 75705）の標本がそれぞれ同博物館に収蔵されていることが判明した．両氏の了解を得てここに長門峡の標本をふくめ所在を明記し，報告しておく．長門峡での採集標本は山口県立山口博物館（標本番号 82182）および東北大学大学院理学研究科生物学教室植物標本室（TUS 229040）に収蔵した．本報告を書くに当たり，山口県立山口博物館学芸員の嶋村拓実氏のお手を煩わせたことをここに附記し御礼申し上げる．

（長岡京市[redacted]）

キクザキイチゲの青森県産1新品種，クルマザキキクザキイチゲ（門田裕一）
Yuichi Kadota: A New Form of *Anemone pseudoaltaica* H.Hara from Aomori, Northern Japan

青森県産のキクザキイチゲの1新品種を報告する．この新品種はまず，すべての雄蕊ががく片状に弁化して八重咲きになっており，さらにがく片の基部が緑色になっていることが特徴の一つである（Fig. 1）．Fig. 2の左の個体では，茎のなかほどに3枚の茎葉が輪生し，さらにそのうえに多数の茎葉が同じく輪生し，茎の先端に八重咲きの花がついているかのように見える．しかし，この2段目のいわば輪生する過剰な茎葉のように見えるものは3枚ではなく多数あり，またがく片のように部分的に白色を帯びたものもある．これらは茎葉ではなく，一部に緑化あるいは小型の普通葉化が起こった一つの花であり，その中心から花柄を伸ばして八重咲きの花を咲かせているのである．この現象は，心皮を形成することで発達を止めた花の成長点がなんらかの刺激で活性化されて，さらに花柄を伸ばして花を咲かせる貫生（proliferation; 例えば，中村信一，週刊朝日百科植物の世界第97号，pp. 9-30－9-32，1996）の一例とみなすことができる．貫生には頂生のものと腋生のものに区別されるが，この場合は頂生であり，先端貫生（diaphysis）と呼ばれる．1段目の花に小型の複葉がみられるのはがく片が普通葉に戻った先祖返り現象である．Fig. 2 の右の個体は